

## I. はじめに

2013年4月、私は第一期の大阪市公募校長として、大阪市立敷津小学校に着任した。目的は「経済格差を教育格差にしない」ために、公立小学校の現場で貢献することだった。しかし、「教員免許なし、担任経験なし、教頭経験なし」の人間がいきなりトップに来ることは、現場で真摯に勤めてきた全ての教職員にとって受け入れがたい事実だったと思う。厳しいスタートではあったが、教頭先生を始めとする教職員の温かい受け止めがあって、充実した3年目を迎えている。

トップでありながら「学校現場を一番知らない人間」である私が送り込まれた理由の1つに、「小学校教育の再発見」があると感じている。教育だけではなく、時には福祉や警察の領域にまで踏み込む学校の奮闘は、もっと知られるべきだ。また、課題解決に外部の力を借りる「チーム学校」の方針が文科省から打ち出されている。多くの人の力を借りるには、課題共有が必要だ。

校長に至る前には、進学塾での管理職経験を持ち、過去10年間は広報会社を経営していた。その経験を活かした公立小学校の広報についてまとめ、同じ課題を抱える学校現場に貢献できればと願っている。

## II. 本校の課題

配属された敷津小学校は、大阪市浪速区という繁華街近くにある児童数118名の小規模校である。小さな学校ながら、10カ国もの外国ルーツの児童がおり、日本語指導が必要な児童も複数いる。平成26年度に、創立140年を迎えた歴史ある小学

校である。そして、表面上は見えにくい「経済格差と学力格差」の問題を抱える。

学校課題の解決には、①地域や保護者の理解を得る、②教職員・児童のモチベーションの向上につなげる ③「チーム敷津」の味方（支援ボランティア等）を増やすことが必要だ。

## II. 実践研究の仮説

〔仮説〕 マスコミ広報の活用

プレスリリースを発信し、マスコミ広報を行うことで公立小学校が活性化するか。

広報には大きく分けて「危機管理広報」「マスコミ向け広報」「関係づくり広報」の3種類がある。危機管理広報については、不祥事やいじめ事案発生などの時の対応研修が行われている。「関係づくり広報」とは、学校だより等の校内・保護者・地域をつなぐ広報である。この論文では、学校の取り組みを広く知ってもらう「マスコミ向け広報」について、実践や成果を紹介したい。

## III. 実践と成果

### 1. マスコミ広報のねらい

テレビ・新聞・雑誌・ネット媒体等で学校が取り上げられることは、「開かれた学校づくり」が提唱される中で高い効果を上げる。ただし、ポジティブな題材で取り上げられることが重要だ。自分自身がマイナスイメージのある公募校長だという自覚から、マスコミ報道をコントロールしなければならないと考えていた。そのためには、積極的な情報発信を行い、取材を招致する「攻めの広報」が鍵となる。テレビや新聞に掲載されることは、教職員や子ども達のモチ

バージョンの向上、保護者や地域の理解を促進するといった効果がある。

## 2. マスコミ広報の実践

### ①インターネットでの情報発信

#### ～マスコミは検索で取材先を探す

公立小学校がマスコミ取材を受けるのは、基本的に受け身である。マスコミは、番組や記事の目的にあった学校をネット検索や口コミで探し、取材を依頼する。よって、検索結果に出るように、連絡先の掲載されたホームページを開いておくことは基本だ。（メールアドレスは、対応できる体制がなければ、掲載しない方がよい。）

着任した2013年4月は、大阪市の公立学校のホームページシステムが大きく変わったタイミングだった。早速、ホームページの作り替えを行い、ブログ形式で簡単に更新できる「学校日記」の更新を週1回ペースで行うようになった。

また、校長ブログ「民間人校長@教育最前線」を個人的に外部のシステムで開設し、月2回ペースで執筆している。これは、公募校長について調べている取材者が読むことを想定し、日々の実践や学校現場の課題を書き綴っている。

### ②プレスリリースの制作と発信

#### ～「社会的意味づけ」を解説する

マスコミへ情報を伝えるには、プレスリリースと呼ばれる報道用資料の発信が効果的だ。マスコミは宣伝に荷担するのを嫌うが、社会的意義のある情報は積極的に取材して読者・視聴者に伝えようとしてくれる。そこで、意義のある行事ではプレスリリースを配信している。

### 【事例1】「土曜授業でのもちつき大会」のプレスリリース

敷津小学校区では40年以上、学校の校庭を使って地域のもちつき大会と百人一首大会が並行して開かれていた。しかし、祝日の開催であり、あくまで児童は自由参加だったため家庭と学校・地域のつながりが弱い児童は来ない傾向にあった。

学校としてはそのような児童と地域・保護者の大人をつなげる場として、もちつき大会を土曜授業扱いにすることを企画し、地域・子ども会・PTAなどに提案を行った。実現にあたり、従来のもちつき大会に「子どもの見守り強化」の意義が加わったことを広く報せたいと願い、プレスリリースを制作・配信した。

### 【プレスリリース作成の流れ】

#### （1）配信日を決める

行事の1～2週間前ぐらいが採用されやすい。問い合わせが即日～翌日であるので、休業日の前日や終業直前は避ける。

#### （2）配信先リストを作る

テレビ・新聞・ネット媒体等の配信先のFAX番号やメールアドレスを入手する。ネット検索で媒体の電話番号を調べ、問い合わせるとFAX番号を教えてもらえる。HPに情報募集の窓口を持つ媒体もある。

#### （3）プレスリリース原稿を作成する

プレスリリースはチラシではないため、事実をできるだけ簡潔に伝えることがポイントになる。同時に、取材したくなるような社会的意義の説明や、タイトルの付け方がポイントになる。

## ◆プレスリリース制作のポイント

「報道関係者各位」と左肩に入れる

報道関係者各位

平成26年12月15日  
大阪市立敷津小学校

地域の餅つきに全員参加！土曜授業で子どもと地域をつなぐ

### 敷津小 もちつき・百人一首大会

12/23(祝) 8:50より浪速区・敷津小学校にて開催

浪速区の大阪市立敷津小学校（校長：山口照美／PTA会長：潮留哲真）では、敷津子ども会（委員長：東信孝）と地域活動協議会が毎年開く「もちつき・百人一首大会」を、「土曜授業」に位置づけて開催することになりました。今までは希望者だけの参加だったもちつきを児童全員で体験し、地域の方とつながる機会にします。同時に、全校児童による五色百人一首大会も実施されます。

### 「小さな学校★大きな家族」都会の小規模校だからこそ 地域とつながって子どもたちを見守り、育てていきたい

大阪市浪速区にある大阪市立敷津小学校では、地域の方が毎月2回の見守り活動を行っています。また、全校児童100名が全員子ども会に所属し、地域行事に参加しやすいよう配慮されています。都会の小規模校で保護者同士のつながりが少ない面もあり、子どもを見守る目を増やすことは「安全・安心に子どもが過ごせる町づくり」において極めて重要です。


大阪市の小学校では、学期に2回以上の土曜授業を実施することとなっています。土曜授業の位置づけは学力向上のためですが、地域や保護者同士がつながる機会にも活用できます。23日は祝日ではありますが、「土曜授業の扱い」として全校児童が参加する授業として「もちつき・百人一首大会」を実施します。今まで地域行事になかなか参加できなかった児童も、授業に位置づけることで地域の方とつながる機会になります。保護者同士が新たににつながる場としても、期待しています。

【敷津小 もちつき・百人一首大会概要】

〔日時〕  
12/23(祝) 8:50～ 五色百人一首大会  
10:20～12:00  
金管バンドクラブ演奏／もちつき大会

〔場所〕  
大阪市立敷津小学校  
大阪市浪速区敷津東3-9-32

〔最寄駅〕  
御堂筋線大國町駅1番出口 徒歩2分



昨年のもちつき大会の様子。地域・PTAの方の協力で、今年は全員参加が実現

「土日に行事があっても、参加する児童が固定しがちで一度も出てこない児童もいます。地域の方とふれあい、あいさつをする関係づくりを進めたい」（校長）。今後も、地域と連携した活動を行う予定です。

《プレスリリースに関するお問い合わせ》

大阪市立敷津小学校 担当：糸井（教頭） 大阪市浪速区敷津東3-9-32  
TEL:06-6641-0101／FAX:06-6641-4817

配信日は行事の実施1週間前に設定

「子どもと地域をつなぐ」をキーワードに

タイトル・小見出しのフォントを目立たせる

リード文で簡潔に内容を伝える

普段の「地域の見守り活動」と、「土曜授業の実施」を踏まえた企画である経緯と意義を本文で解説

昨年度の写真を紹介し、取材者の「絵になる」イメージを喚起

校長のコメントをつけることで、現地取材なしでも記事にまとめられるように配慮  
※ネットニュースが増えているため

- A4用紙1枚に簡潔にまとめ、タイトル・見出しに目を留めてもらうレイアウトにする。
- 文字だけでは読めないなので、枠や写真を活用する。
- 連絡先や担当者の名前を入れる。

### （４）原稿を配信する

FAX・メール等でプレスリリースを配信する。特に地元ネット媒体である「みんなの経済新聞」の地元版は、ヤフーニュースに転載される可能性もあり必ず送る。FAXの場合、送り状は不要。

## ◆取材実績

平成26年12月24日 朝日新聞大阪版



◆「祝日授業」で地域と交流  
天皇誕生日の23日、大阪市立  
敷津小学校（浪速区）で、児童  
約100人と地域住民約120  
人が参加して「もちつき・百人  
一首大会」があった。従来は任  
意参加の地域行事だったが、今  
回は、学校の「土曜授業」と位  
置付けて祝日に開催し、例年以  
上に多くの子どもでにぎわった  
＝写真、学校提供。

## ニュース短信

平成26年12月26日 大阪日日新聞

大阪日日新聞

児童 保護者 住民 つながりづくり願い

地域住民らの指導を受けながら餅つきを体験する児童たち

今回初めて授業に位置付けたのは、日本の伝統行事を子どもたちに体験してもらおうと、敷津小と、大阪市の市立八では、学期中もつぎと百人一首の大会。同小に2回以上の土曜授業をすることになり、地域のつながりづくりに役立てようとする。地域住民と子どもだけでなく、保護者同士が顔を合わせる機会にするのも目的に掲げた。

23日の授業には、ほぼ全児童が出席。餅つき大会では、大人たちの指導を受けながらきねを振りおろしてもち作りを体験し、百人一首の大会では一枚でも多くを取ろうと熱戦を繰り上げた。

初めて餅つきを体験した1年の極田悠斗君（6）は「楽しかった」と笑顔。母親の眞佐子さん（36）は「親子で参加できてよかった。初めて会った保護者の皆さんともいろいろ話ができたと喜んでいました。在日外国人の子と多いのも地域の特徴で、半年前に中国から転校してきた6年の大塚愛子さん（11）は「昔日本に来たときに体験したので、餅つきをすると日本に来たときを思い出せる」と貴重な体験を満喫していた。

PTA会長の潮留哲哉さん（47）は「この機会に子どもも知り合った大人が、日常的に声掛けをしてくれるようになった」と願っていた。

山口照美校長は「小規模校のため、地域では独りで過している児童もいる。住民らの見守りの目を増やすのは重要。今後も交流の機会を継続していきたい」と話していた。

敷津小

浪速区

# 地域行事を土曜授業に

地域の各種団体が企画する子ども向けの催しを学校の授業に位置付けて開き、地域住民と児童の交流の機会として役立てる試みが、浪速区敷津東3丁目の敷津小で開かれた。地域のつながりの希薄化が社会問題となる中、関係者らは「住民の皆さんに児童と接してもらい、見守りの目を増やすきっかけにしていければ」と思いを込めていた。（加屋由麻）

## ◆本事例の成果

プレスリリースと同時にPTAや地域にも「子どもと地域をつなぐ」行事にしたいというメッセージを明確にした。

その結果、PTAや地域の方が自主的にひらがなで名前を書いた名札シールを胸に貼ってくれた。児童も名札を貼り、お互い

の顔と名前を知る機会になった。今まで、地域行事として長年続いていたが、一部の児童が来られなかったという課題を地域に知ってもらったことも大きかった。

今年度は地域行事に戻すことにしたが、これら取材記事の活用で、より多くの児童が参加するよう、PTAや教職員にも協力を求めやすくなった。

〔H25～H27年度実施リリース一覧〕

配信日	リリースタイトル	取材実績・備考
H25. 6.20	バレーボールを通じて日本と台湾の小学生が国際交流 大阪・こども日台交流バレーボールのご案内	・問い合わせはあったが取材に至らず ・校区内にある大阪中華学校との共催イベント
H25 7.31	夜に地震が起こった？小学校での避難所開設訓練「夜の震災避難所開設訓練」のご案内	・産経新聞、大阪日日新聞、なんば経済新聞（ネットニュース） ・学校を使った地域の防災訓練で児童も保護者と参加した
H26 12.15	地域の餅つきに全員参加！土曜授業で子どもとをなぐ敷津小もちつき・百人一首大会	・朝日新聞、大阪日日新聞、地元ケーブルテレビ
H27 1.6	現役プロレスラーに「夢をかなえる力」学ぶ敷津小「キャリア教育授業」のご案内	・関西テレビ(キャリア教育特集)、なんば経済新聞
H27 1.6	子ども会×NPO×学校の連携で、中学へつなぐ力をつけるしきつチャレンジ教室（無料土曜塾）をスタート 毎週土曜日に5・6年生対象の無料個別指導塾を開催	・大阪日日新聞、読売新聞 ・敷津校下子ども会の名前で発信、「経済格差を教育格差にしない」ための実践として広報

H27 6.8	バレーボールを通じて日本と台湾の小学生が国際交流 大阪・こども日台交流バレーボール	・なんば経済新聞 ・校区内にある大阪中華学校との共催イベント
------------	--	-----------------------------------

難波で日本と台湾の小学生、バレーボール通じて国際交流

2015年06月24日

ツイート おすすめ シェア 95 G+1 10



学校法人・大阪中華学校が6月19日、台湾の小学生のバレーボール選抜チームを招いて大阪市立敷津小学校（大阪市浪速区敷津東3）でバレーボールの交流試合を行った。

ネットニュース「なんば経済新聞」の記事

直接取材に結びつかないプレスリリースでも、定期的に発信することで何か題材が欲しい時に問い合わせてもらえる。書式を作成しておけば、簡単に書くことができる。

世界最大のネット販売企業であるAmazonでは、これから開発するサービスの企画をプレスリリースの形で出すことを命じている。理由は「このサービスを出す意義があるか」を、マスコミとその先にいるユーザー目線で確認することができるからだ。

学校でプレスリリースを書いてみると、学校・地域行事を漫然と実施するのではなく、子ども達にとって本当に意味がある企画かどうかを問い直す機会になる。学校現場は「スクラップ&ビルド」の「スクラップ」の部分が苦手だ。教職員の負担になるだけの行事や習慣はやめるべきだ。しかし、地域事情で廃止が難しいケースもある。

その場合は、実施における意味が持てるよう工夫し、広報することで、長年続けた授業や行事が有意義なものに変わる。

### ③マスコミ取材を教育活動に活かす

マスコミ取材は、児童・保護者・地域が学校の教育活動を理解するきっかけになる。掲載・放映日を知らせたり、ホームページで内容を掲載したりして取材効果を高めることができる。何より、主役である子ども達にプラスとなる工夫を考えたい。

#### 〔事例2〕キャリア教育授業のリリース

保護者・社会人によるキャリア教育等の出前授業は、長年どこの学校でも行われており、特に珍しいものではない。それを再度、意味づけをして発信することで、教職員や子ども達も新しい視点で取り組むことができた。

##### 【リリース内容】

###### ●タイトル

現役プロレスラーに「夢をかなえる力」を学ぶ／敷津小「キャリア教育授業」のご案内

###### ●見出し

中学へつなぐ基礎学力、未来へつなぐキャリア教育／10年後に必要な「生きる力」を考える機会に

###### ●本文

・「2011年に小学校入したアメリカの児童65%が、将来、現在は存していない職業に就く」という、アメリカの研究者・キャシー・デビッドソンの未来予測

・義務教育を乗り越える基礎学力を見直し、予測できない未来を生きるためのキャリア教育を「卒業までの100日間プロジェクト」として6年生に実施する。

・プロレスラー・毛糸作家・看板職人（保護者）等によるキャリア教育スケジュール

配信後、キャシー・デヴィットソンの未

来予測に反応したテレビディレクターが、敷津小に何度も足を運んで取材を重ねた。そして「10年後を生きる力とは？」というテーマで特集・放映した。（右写真）

取材時にインタビューされたりカメラが入ったりする中で、6年生は積極的に将来について考え、言葉にする機会となった。また、放映された番組を全校児童朝会で見て、キャリア教育の意義を確認した。この時には、スライドを使って「仕事を見つけよう！」という校長講話を合わせて行い、6年生の取り組みを全校に広げる機会を作った。

#### 敷津小6年生の「仕事の授業」が、テレビのニュースで紹介されました




ちょっと見てみましょう！



※本人および保護者使用許可済み



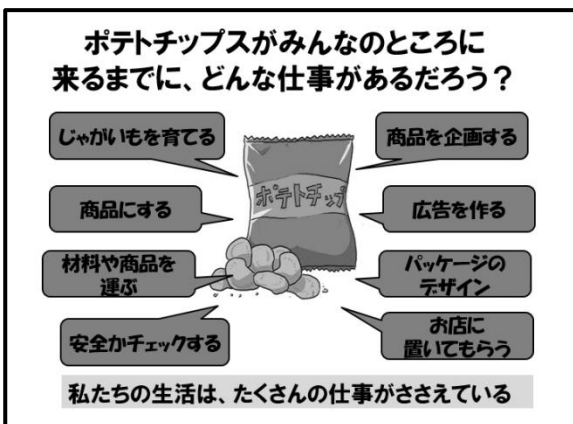
**10年前になかった仕事がたくさん増えています**



ユーチューバー      農業プロデューサー

時代が変化すれば、必要になる仕事も変わっていきます。

**身のまわりの仕事を、さがしてみよう！**



これからの時代に大事な授業に敷津小が取り組んでいることを、全校児童で共有し、考えることができた。

### 3. マスコミ広報の注意点

むやみにマスコミ取材を受けることは、学校運営に逆効果になる。特に、以下の点に注意して取材対応を行っている。

#### (1) 保護者・本人の了解を得る

児童のインタビューが必要な場合は、保護者と本人の許可を得た児童のみにする。今年度は、年度当初に学校ホームページでの掲載も含めて、掲載・取材の許可を尋ねる文書を配布し、了解を得た。その上で、児童の安全面を考え、学校ホームページには顔や名前を出していない。

#### (2) 受ける取材を検討する

取材が多忙な時期に重なる、掲載・放映が学校運営にプラスにならない（本校でなくても構わない）ケースは断る。

#### (3) 記事や放映内容をチェックする

外部に出すべき情報と、出してはいけない情報を明確に分けて説明し、可能な限り学校での原稿・内容チェックをするようにしている。事実や意図と異なる内容の際は、修正を依頼する。

#### (4) 取材者と良好な関係を築く

掲載・放映に至らない取材も多くあるが、マスコミ関係者に学校の奮闘や課題を知ってもらう機会と考えて丁寧な対応を心がけている。媒体で人事異動があった際には連絡をもらえるような関係づくりをめざし、名刺交換をしてマスコミ人脈を整理している。異動の際には、次の管理職に引き継ぐ予定だ。

取材者も多忙なため、近年はFAXよりもメールでの情報発信の方が、喜ばれる傾向にある。個人宛のメールであれば、前回の取材のお礼や反響を伝え、次の題材を案内する形を取っている。

### 4. マスコミ広報の成果

仮説で示した「公立小学校はマスコミ広報で活性化するか」というテーマについて、多方面への成果を感じている。

第三者に学校や地域行事が紹介されることで、学校が積極的に動いている印象を子ども・保護者・地域に与える効果がある。さらに、他の学校や教育関係者から反響をもらうことが増え、取り組みを知ってもらう機会となった。

ホームページで取材があったことを発信することで、実際に見ていない保護者や敷津小の情報を得たい就学前の保護者にも、学校のポジティブなイメージを伝えることができる。

新入生の中に、「学校の評判を聞いて」「テレビやホームページを見てこの学校へ進学したいと思った」という保護者が数名おり、H24年度は18名だった新入生がH27年度には27名と増加している。広報効果だけではないが、学校イメージが向上しているのを感じる。

特に、地域からは「敷津を有名にしてくれた」と感謝の声が多くあり、新しい取り組みに対して協力を得やすくなった。さらに、ボランティア志望者からの問い合わせが増え、支援スタッフの確保に役立っている。

教職員も外部から注目を浴びていることを、プラスに捉えてくれている。子ども達は取材を受ける機会やプロの仕事を見る機会となると同時に、敷津小に誇りを持つきっかけになっている。

#### IV 今後の課題

2年半、学校広報に取り組んできた中で、気づいた今後の課題は以下の通りである。

##### ①市や区全体で取り組める学校広報

敷津小の方法では、各校が自らマスコミリストを作成して送ることになる。教育委員会の広報部門は危機対応がメインであり、各学校の取り組みを発信する余裕は無い。区との連携も進む中で、行政の広報ネットワークを活用させてもらえる仕組みができると、現場の負担を減らしながら広報に取り組めるのではないかと考える。

##### ②年間計画に基づいた学校広報

外部から来た民間人校長の目から見て、長年続いている学校行事や授業の中にはニュースになるもの、報せるべきものが数多くある。リリースのタイミングを逃したが、「着衣水泳」「ケータイ安全教室(携帯電話を安全に使うための授業)」「種苗会社によるなにわ伝統野菜の出前授業」などのマスコミ視点で興味深い題材があった。

民間企業では「年間広報計画」を立て、広報スケジュールを決めて動いている。学校ホームページ・学校だより等と連動した「学校年間広報計画」を立てて動くことで、1年間の行事の見通しや学校課題を踏まえた重点企画が見えてくる。運営の計画作成時に、広報計画を立てるようにしたい。

#### V まとめ

「プレスリリースは宣伝ではなく宣言」と考えて、学校広報に取り組んできた。マスコミに放映・掲載されても、中身の伴わない学校運営をしていては保護者の反発は必至であり、逆効果となる。H26年度のプレスリリースが少ないのは、校内課題の解決に注力していたためだ。

外部への発信は学校としての「行動宣言」となるため、発信する側の覚悟も問われる。「開かれた学校」を求められる中、学校ホームページでの発信と共に有効な方法だと考えている。

最近、ようやく子どもの貧困問題がマスコミで語られるようになった。「課題を話題に」することで、解決が進む。今後はさらに、「経済格差を教育格差にしない」ための学校課題の広報に努めるつもりだ。